



1950年  
2月19日  
東京新聞

## 発掘された映画たち2022

Cinema: Lost and Found 2022

### 稲垣浩による伊丹追悼映画 『俺は用心棒』

(1950、東横、監・構成：稲垣浩、脚：伊丹万作)



\* 5月5日(木)、14日(土)に使用したpptから、HP掲載にあたって申請・許諾が必要な資料画像は全て削除しています。ご了承ください。

国立映画アーカイブ主任研究員 富田美香



1950年2月19日読売新聞



1

## 発掘された映画たち2022

# 『俺は用心棒』

**16 5/5(木・祝)4:00pm★ 5/14(土)6:30pm★**

**俺は用心棒** (65分・35mm・白黒・不完全)

映画界が時代劇の内容と本数を「自粛」した時期に、往年の千恵プロ・トリオの伊丹万作、稲垣浩、片岡千恵蔵の作として放たれた明朗時代劇。伊丹の遺稿の無声映画脚本『昔を今に』(仮題)に、千恵プロ時代の伊丹脚本を複数組み込んで構成した、若い浪士の放浪譚。稲垣による伊丹追悼映画といえる。主な欠落は巻頭の、「幸福の印籠」を入手した主人公が喧嘩で牢に入り、就職口を逃す件り。←3シークエンスほど

(原版提供：神戸映画資料館、フナネット映画資料図書館)

1950(東横)◎稲垣浩◎伊丹万作◎伊藤武夫◎嵯峨一平◎伊福部昭◎片岡千恵蔵、月形竜之介、岸旗江、折原啓子、花菱アチャコ、遠山満、杉狂児、香川良介、朝雲照代、橘公子、滝沢静子

- ・元素材に由来する画面の揺れや欠損等があります。あらかじめご了承ください。
- ・★印の回は上映後に当館研究員による解説(約20分)があります。



千恵蔵・稲垣・伊丹(1900-1946)は、片岡千恵蔵プロダクション(1928-1937)から、「明朗時代劇」で日本映画に新風を巻き起こしたトリオ。



『旅は青空』(1932、千恵プロ、稲垣浩)スナップ  
(『映画読本 千恵プロ時代』1997、フィルムアート社)より

2

『俺は用心棒』

## 時代劇の内容と本数の「自粛」＝時代劇自粛協定

1949年6月 映画倫理規程管理委員会発会

(委員24名＝劇映画製作会社代表6+製作部門代表5+配給興行部門代表4+独立興行者代表1+芸術家代表4+映画界第三者代表4。実行機関の管理部に専門審査員2)

製作着手前にシノプシス+脚本提出→専門審査員審査→パス・管理委員会(3/月)

「大時代な剣戟映画」：9月東横『大菩薩峠』新演技座『鳴門秘帖』提出、松竹『砂繪呪縛』大映『修羅八荒』予定  
⇒「時代劇映画に対する各社の無批判、無反省な態度の現れであるとして重大視」

10月「時代劇映画は一配給系統年間五二作品のうち二五パーセントを越さず、一か月一本以内(新版も含めて)に自粛することを申合せ」  
「営業の都合で月二本配給する場合は翌月遠慮する」

『俺は用心棒』(映倫審査「もしもあの時」)11/10受付、11/25審査終了、1月撮影

大映11月「女殺し油地獄」「無頼漢長兵衛」12月「甲賀屋敷」「怪猫 謎の三味線」公開→陳謝、4か月配給遠慮、のち1月に「蛇姫道中」公開  
新東宝1951年4月から自粛協定破る

1951年8月 社長会議「客観情勢の変化に伴い、本数制限を撤廃し、企画の面において慎重を期す」

3

『俺は用心棒』

## 伊丹万作の遺稿『昔を今に』(仮題)とは

伊藤大輔『『昔を今に』解説・その他』より  
(『映画芸術』1947年1月号、第2巻第1号、星林社)

これは愛蘭の作家ロード・ダンセイニの戯曲“IF”を翻案・脚色したものである。〈…〉問題は、過去十年の物語の処理法で、私にはどうも料理し切れず〈…〉現実と夢幻の交錯した、謂わば物語の扱い方が至難なわけで〈…〉(伊丹の此の脚本では殆ど原作通りの筋を其儘になぞってゐる)

それじゃあ、それほどむつかしく考えないで大體を原作通りの筋で追ひ、〈…〉兎も角、やってみようか—と伊丹が引取って、一應纏まった形に書上げたのが多分昭和七年だったと思ふ。それが第一稿である。讀んだが、私は、即座にウン!とは云へなかつた。伊丹自身も「いや、難物だ」と顎を撫でた。その後、更に構想を新たにし、ここに掲載したのは第二稿であるが、第三稿と称して良い程、部分的な改訂が施されてある。〈…〉

4

『俺は用心棒』

## 伊丹万作の遺稿『昔を今に』(仮題)とは

伊藤大輔「『昔を今に』解説・その他」より  
 (『映画芸術』1947年1月号、第2巻第1号、星林社)

未定稿のことゆえ、題名も極ってゐない。原作の「停車場」を、私の初稿で「暮六ツの渡場」にしたので、爾来二人の間では此の“IF”を指して「暮六ツ物語」と呼んでゐたがそれでは題名にならない。

伊丹:「吉凶視眼鏡」「運命講義録」「渡し場の暮六ツ」など  
 伊藤:「昔を今に譚」「今は昔の物語」「春や昔の物語」など  
 舟越氏訳は素直に「もしも」としてゐるが、松村氏か室氏かの訳で「昔を今に」としてあったので、それを踏まえて表題とした<…>

私を映画界に導いて下さった亡き恩師と、私が映画界へ連れ込んだ今は亡き唯一の友と、その因縁の為にも<…>實現に努力しなければならぬ<…>

5

『俺は用心棒』

## 『俺は用心棒』: 伊丹万作の遺稿+稲垣浩の構成

<…>伊丹万作のサイレント時代の脚本「もしもあの時」を基にして、新たに稲垣浩がトーキー・シナリオに構成潤色したものであるが、題名も「もしもあの時」から「暮六つの鐘」となり、「路は何処にもある」と変ったが、更に「路は何処にも」から「俺は用心棒」と決定<…>(「思い出の名コンビの再現/時代劇映画の明朗諧謔篇/俺は用心棒」『映画ファン』1950年3月号)

稲垣: このシナリオは伊丹万作がまだ手慣れぬころ書いた「道はいずこにも」を基礎にしたもので千恵プロ時代に一回撮ったことがある<…>「絵本武者修行」<…>

滝沢: <…>試みられたギャグには「絵本」のものが復活して用いられたものが多い。(「東横映画 俺は用心棒 監督を困む批判会/稲垣もの」中に生きる万作精神村上忠久、稲垣浩、清水光、滝沢一」『都新聞』1950年2月22日)

伊丹万作の「もしもあの時」と「絵本武者修行」を合して改作したものが、「もしもあの時」は伊丹本が役に立つから使わぬ方が良いという意見が出て、「用心棒」とつけた。然しマキノ満男から上に何かつけてくれという乞いによって「俺は」と付けた。(「稲垣浩 作品改題メモ」高瀬昌弘『わが心の稲垣浩』ワイズ出版、2000年)

6

『俺は用心棒』の脚本と構成		早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 稲垣文庫 ㊦133 1 『俺は用心棒』撮影台本
伊丹万作の遺稿「昔を今に」(仮題)		映倫審査台本『もしもあの時』
川	映倫審査台本『もしもあの時』	撮影台本
【川】 老渡守が昨日の出来事を百姓に話す。	○	×
【前日】 役人、暮六つ過ぎは禁止と舟客を降ろす。	○	×
【川】 老渡守、暮六つ過ぎに八郎と問答、八郎断念。	○	×
【10年後 山間の自宅】 小鼓の八郎、妻の小波との生活。榎木鉢が壊れた話。行脚僧が一夜泊。礼に、昔に一度返ることが出来、これまでとは違った運命の10年間を一目過ごすことができる小石を渡す。八郎、妻の懇願をおして、10年前の川辺へ。	○	×
【10年前 川】 八郎、老渡守の舟で渡る。	【10年前】 浪人中の八郎、誤解で牢に入り屋敷勤めの職を逃す。	○幸福の印籠。
【茶店】 八郎、兵馬と酒を呑む「近頃の奴らは理屈が多い」	【道】 八郎、横兵衛と出会う。広場で決闘「近頃の奴らは理屈が多い」	○
【道】 八郎と兵馬、大勢から逃げる女を見、「若い者の夢は充たされるぞ」	○	○
【道】 八郎と兵馬、身投げ女を救う	○八郎、猫を拾う。身投げ女を救う	○
【宿】 八郎と兵馬、身投げ女の話聞く。	【宿】 八郎と横兵衛、女の話聞き寝る。	○
【娘の昔話】 山の頭が材木商をだまし、父と番頭は行方不明、叔父が店を仕切り、叔父の決めた相手との結婚へ	【女】 八郎の金を盗む。八郎、女を追い、返してもらう。	○
【道】 八郎と兵馬、女を救うため、山へ。	【宿】 八郎と横兵衛、宿を後にする	○
【あばら家】 八郎と兵馬、女を救うため、山へ。番頭と出会い一計	【河原】 八郎と横兵衛、やくざの喧嘩を見る	○
【山の頭宅】 番頭、金山を見つけたと報告	【居酒屋】 八郎と横兵衛、酒を飲む。お初にからむ大串屋の乾分を倒す。	○
【谷あい】 八郎と兵馬、山の頭一党を倒す。	【宿】 八郎と横兵衛、五斗屋の用心棒になる。「退屈な商売」。将棋。	○
【6年半後 山の頭宅】 八郎が、新山の頭に。「退屈」女と兵馬の中、家来たちの不穏な動き。謀反の合図、兵馬の裏切りを知り、八郎去る。	【宿場】 八郎、お初に恋。お初の恋人与吉を牢から救う。小川のラプソディ。八郎、大串・五斗屋をだまして逃げる	○
【3年後 居酒屋】 乞食の八郎、嫌がられながら食べて眠る	【道】 逃げる。泥棒女と再会。「人間なんて寂しいものね」「彼は逃げたー」	○
【お宮の縁の下】 八郎、寝る	○	○
【道】 歩く八郎	○	○
【自宅前】 八郎、義平、奥方と会う。義平、八郎の小石を、これがあるために不幸になっているのかも、と壊す。	○	×
【自宅】 八郎、床から起きる。鉢が壊れた話。八郎、渡し舟に乗らなくてよかった、と言う	○	×

7

『俺は用心棒』の脚本と構成		早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 稲垣文庫 ㊦133 1 『俺は用心棒』撮影台本 / ㊦133 2 『俺は用心棒』絵コンテ
「昔を今に」+映倫審査台本『もしもあの時』		『天下太平記』1928年6月公開
【川】 老渡守が昨日の出来事を百姓に話す。	×	<p>1929年6月公開作品</p> <p>和洋狂想曲</p> <p>田中義明指揮</p> <p>繪本武者修行</p>
【前日】 役人、暮六つ過ぎは禁止と舟客を降ろす。	×	
【川】 老渡守、暮六つ過ぎに八郎と問答、八郎断念。	×	
【10年後 山間の自宅】 小鼓の八郎、妻の小波との生活。榎木鉢が壊れた話。行脚僧が一夜泊。礼に、昔に一度返ることが出来、これまでとは違った運命の10年間を一目過ごすことができる小石を渡す。八郎、妻の懇願をおして、10年前の川辺へ。	×	
【10年前】 浪人中の八郎、誤解で牢に入り、屋敷勤めの職を逃す。	○	
【道】 八郎、横兵衛と出会う。広場で決闘。「近頃の奴らは理屈が多い」	○	
【道】 八郎と兵馬、大勢から逃げる女を見、「若い者の夢は充たされるぞ」	○	
【道】 八郎、猫を拾う。身投げ女を救う	○	
【宿】 八郎と横兵衛、女の話聞き寝る。	○	
【宿】 女、八郎の金を盗む。八郎、女を追い、返してもらう。	○	
【宿】 八郎と横兵衛、宿を後にする	○	
【河原】 八郎と横兵衛、やくざの喧嘩を見る	○	
【居酒屋】 八郎と横兵衛、酒を飲む。お初にからむ大串屋の乾分を倒す。	○	
【宿】 八郎と横兵衛、五斗屋の用心棒になる。「退屈な商売」将棋。	○	
【宿場】 八郎、お初に恋。お初の恋人与吉を牢から救う。小川のラプソディ。八郎、大串・五斗屋をだまして逃げる	○	
【道】 逃げる。泥棒女と再会。「人間なんて寂しいものね」「彼は逃げたー」	○	
【お宮の縁の下】 八郎、寝る	○	
【道】 歩く八郎	○	
【自宅前】 八郎、義平、奥方と会う。義平、八郎の小石を、これがあるために不幸になっているのかも、と壊す。	○	
【自宅】 八郎、床から起きる。鉢が壊れた話。八郎、渡し舟に乗らなくてよかった、と言う	○	
	うどん屋、乞食が印籠を捨てる	『逃げ行く小伝次』?? 1930年10月公開
	村 猿回し 居酒屋 猫 小川 お初との再会	

8

『俺は用心棒』

### 伊丹万作の遺稿+稲垣浩の構成

稲垣：新しい試みとしては映画でおっかけをやってみた、最近のおっかけはカメラを移動するが、今度はカメラを固定して人間を走らせる、このやり方をふんだんに使ってみた。活動写真時代はこの方法しか知らなかったが、その後移動撮影が使われるようになって古い追っかけが使われなくなった。ボクは千恵プロ時代のことを思うとどうしても使いたかったんだ。

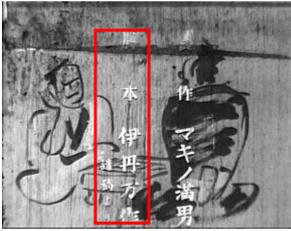
村上：それだけこの映画は逃げるシーンが多いわけだが、伊丹さんは逃げるのが好きだった“逃げることは彼が助かる唯一の方法である”という解説が「用心棒」のなかにもあらわれる（「東横映画 俺は用心棒 監督を困む批判会/稲垣ものゝ中に生きる万作精神村上忠久、稲垣浩、清水光、滝沢一」『都新聞』1950年2月22日）

猫は伊丹の家族の一員として不可欠のものとなってしまった。〈…〉猫好きになった伊丹は『赤西蠣太』に猫を使用して唯一回で有効適切な効果を挙げた。爾来、私は猫を映画中に使わないことに極めた。（伊藤大輔「万作と猫と私」『映画展望』1947年1月号）

9

発掘された映画たち2022

### 『俺は用心棒』



本 作  
伊丹万作  
脚本 滝沢一



この脚本は、故伊丹万作の無声時代の脚本を基として構成潤色したものである。そして、この作品に據って再び還らぬ彼をひそかに偲びたいと願うものである。

板目 眞作



監 構  
稲垣 浩  
原 案  
伊丹万作  
脚本  
滝沢一

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館  
稲垣文庫 31331 『俺は用心棒』撮影台本

10